

## 世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 出題傾向

入試日程	問題	出題分野・テーマ	難易度
2/3	問1～問26	古代から現代における様々な地域の歴史的事象	標準
2/4	問1～問26	様々な地域の文化に関連する歴史的事象	標準
2/5	問1～問26	様々な都市に関連する歴史的事象	標準

## ●出題形式

出題形式はすべてマークシート方式で、記述解答問題はない。

いずれの日程においてもリード文のない一問一答形式で出題されており、設問数は26問である。2月3日の問題では4つの語句から適切なものを選択する問題と4つの短文の正誤判定問題で構成され、2月4日・5日の問題ではこれに加えて、4つの出来事の年代配列問題や3つの語句の組み合わせ問題が出題された。地図や写真などの図版を使用した形式の問題は出題されていない。

## ●出題範囲と出題内容

## a. 出題範囲

先史時代に関する問題はないものの、すべての入試日程で古代史から現代史まで幅広く出題されている。

## b. 出題内容

一問一答形式で出題されているため、それぞれの設問で問われている内容に関連性はない。教科書において記述量が多いヨーロッパ史や中国史を中心としつつ、アメリカ、イスラーム世界、インド、東南アジアといった頻出地域に加えて、受験生が学習を疎かにしがちな南米のアルゼンチンや日本と中国の関わりに焦点をあてた出題なども見受けられる。

出題されている分野は、2月4日の問題では他の日程に比べて文化史の比重が大きかったが、全体的には政治史を中心に問題が構成され、土地制度・税制や貿易といった社会・経済史、思想・文学・美術といった文化史など様々な分野もバランスよく出題されている。

## ●問題の傾向

入試日程によって多少の差異はあるものの、26問中18～21問で正誤判定問題の形式がとられており、他大学の入試問題の構成と比較すると、正誤判定問題の出題が多く、単なる語句の知識ではなく歴史的事象の理解を求める傾向にあると言えよう。2月3日の問題では1つの時代や1つの国・地域で4つの選択肢が構成される正誤判定問題がほとんどであったが、2月5日の問題は都市をテーマとしているため、様々な時代に関する4つの選択肢で構成された正誤判定問題が出題された。こういった1つの設問で様々な時代の事象に関する知識を問う問題はこれまでの入試でも出題されており、対策が必要である。

## ●難易度

問題の難易度は標準的で、教科書の内容を大きく逸脱するような出題はない。ただし、正誤判定問題においては選択肢の一文がやや長く、歴史的事象の深い理解はもちろんのこと、正確に選択肢を読み知識をもとに思考・判断する力を要する問題もあるため注意が必要である。

## 世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 学習対策

## ●全範囲の対策ができるよう、計画的に学習を進めよう

椋山女学園大学の入試問題においては出題される時代・地域・分野が幅広く、古代史から学習をはじめて現代史の対策が不十分になってしまったり、ヨーロッパ史は得意だが東南アジア諸国は王朝の変遷すら曖昧な知識であるといった状態では高得点は望めない。また、前述したように文化史の比重がやや大きい入試日程や、国連人間環境会議の開催都市を問うようなテーマ史からの出題もあるため、全範囲の基礎知識を身につけることが大切である。苦手な範囲を復習する時間や、問題演習を行う時間も確保できるような学習計画を立てて取り組もう。

## ●歴史的事象の「理解」に重点を置こう

歴史の学習は用語の暗記だと考える受験生も多いが、椋山女学園大学では単純に語句の知識を問う問題は2割未満しか出題されていない。ほとんどが正誤判定問題であり、その中には用語の誤りではなく時代や因果関係の誤りを判別する問題もある。したがって単に歴史用語を暗記しているだけでは合格点をとることは難しい。問われている知識は概ね教科書レベルの内容であるため、まずは教科書を精読し、歴史の流れをしっかりと理解しよう。事件の名称や関わった人物を知識として覚えることももちろん必要だが、どのような背景・原因のもとで起こったのか、どのような結果に至り、それがその後の社会や周辺地域にどのような影響を与えたのかも理解してほしい。

## ●正誤判定問題の演習や椋山女学園大学の過去の入試問題の演習を徹底的に行い、問題を解く力を養おう

椋山女学園大学で出題される正誤判定問題は選択肢の一文がやや長い問題もあるため難しそうに感じる受験生もいるかもしれない。しかし、極端に細かな知識を要する問題や、誤文の根拠が曖昧な難問は出題されないため、椋山女学園大学と同様の形式の正誤判定問題を多く掲載した問題集を1冊購入し、演習を繰り返し行えば、十分に対応できるだろう。その際、何となく正しい文を選択するのではなく、それぞれの選択肢のどの部分が誤っているのか確認し、正しい表現に書き換えながら問題を解いてほしい。正解した問題であっても、誤文の根拠がわからなかった選択肢については用語集で調べて、知識を補ってほしい。このような丁寧な問題演習を続けると、どのような部分の正誤性が問われやすいのか徐々にわかるようになり、その部分に注意しながら選択肢を読むことができるようになるため、正答率が上がるだろう。

また、学校の定期試験は教科書に沿って試験範囲が指定され、特定の時代や地域から作問されることが多いが、椋山女学園大学では1つの正誤判定問題の中で異なる時代の知識が問われることもある。例えば、モスクワに関連して、中世からはモスクワ大公国、近世からはエカチェリーナ2世、近代からはナポレオンのロシア遠征、現代からは冷戦の終結に関する選択肢で正誤判定問題が出題された。椋山女学園大学では毎年このような正誤判定問題が出題されているため、ぜひ過去の入試問題を解き、異なる時代や地域に関する知識を柔軟に活用して考え、問題を解く力を養ってほしい。